

令和7年度地域活性化伝道師派遣状況

令和8年3月31日
地方創生推進事務局

令和7年度は、5地域に対し、以下の5名の地域活性化伝道師を派遣した。

※「所属」は令和8年3月31日現在のもの。

No.	派遣先・相談主体	伝道師名	所属／肩書
1	佐賀県武雄市	河合 克仁	株式会社アクティビスタ / 代表取締役 国立大学法人筑波大学 / 非常勤講師
2	愛知県豊田市	藤岡 慎二	(株) Prima Pinguino / 代表取締役
3	埼玉県和光市	久野 美和子	電気通信大学 / 脳・医工学研究センター客員教授、総合 コミュニケーション科学推進室客員研究員 日本経営士協会 / 理事 (経営支援センター統括) & 千葉 東葛経営支援センター長
4	山口県下関市	木田 悟	一般財団法人日本スポーツコミッション / 代表理事
5	岩手県一関市	吉澤 武彦	一般社団法人 日本カーシェアリング協会 / 代表理事

※地域活性化伝道師の詳細なプロフィールは、当推進事務局のホームページをご参照ください。

地方創生推進事務局>施策>地域活性化伝道師

<https://www.chisou.go.jp/tiiki/dendoushi/index.html>

実施報告書

地方公共団体名	武雄市	派遣伝道師氏名	河合 克仁
依頼内容	<p>本市では、人口減少を食い止め、若者に選ばれるまちづくりを目指し、高校生から概ね22歳までの若い世代の意見を聴く場「たけお若者ミーティング」を開催する。伝道師には、「たけお若者ミーティング」のファシリテーターを務めていただき、若者が夢を持ち「楽しい」と思えるまちづくりや若者が活躍できるまちづくりのために何が必要かなど政策につなげる意見を聞き出していきたい。また、「たけお若者ミーティング」の実践を通じて、職員はそのファシリテートの手法を学び、継続事業として事後の取り組みに活かしていきたい。</p>		
依頼に対する活動内容	<p>本市の将来を担う若い世代の想いやアイデアを集め、市政に反映していくことを目的とし、令和7年8月27日(16:00~18:00)に市役所1階ホールで「たけお若者ミーティング」を開催。市内に在住、または通学・通勤する学生や社会人の27名が参加。地域活性化伝道師の河合克仁氏にファシリテーターを担っていただいた。ワークショップでは「若者が“また住みたい”と思える街とは？」をテーマに、6つのグループに分かれて意見を出し合い、最後に発表を行った。なお、15:00~16:00の間では、ファシリテーターを務めて頂くにあたり、市内の概要や市の政策などについて、打ち合わせを実施した。</p>		
成果	<p>会を通じ、参加した若者から「世代を超えて楽しめるイベントや施設」、「安心して暮らせる交通・医療環境」、「若者が居心地良く集まれる場所づくり」が重視された意見が多く挙がり、本市の今後の市政に反映していくべき情報を得ることができた。また、職員は地域活性化伝道師のファシリテートの手法を間近で体験し、学ぶことができた。</p>		
課題	<p>今回、会の対象を「高校生から概ね22歳までの若い世代」と限定していたため、社会人の参加が想定より少なかった。より幅広い層の若者の意見を聴取するために、次回以降の開催では対象年齢を広げるなどの改善が必要である。</p>		
今後の方針	<p>今回の会の開催の経験を活かし、次年度以降も継続して若い世代の意見を聴取し、市政に反映していく取り組みを実施していく。</p>		

実施報告書

地方公共団体名	豊田市	派遣伝道師氏名	藤岡 慎二
依頼内容	<p>魅力ある教育環境を実現することで、定住や関係人口の増加など地域の活性化につながった事例を紹介いただき、自治体として何に取り組むべきか助言をいただきたい。具体的には、今まで藤岡様や(株)Prima Pinguino様が関わって来られた事例の中で、特に小中学校の取組を中心に御紹介いただき、教育環境だけではなく、まちづくりにどのような影響があったのかをお教えいただきたい。また、その取組の中で行政や住民の意識変革を促す仕組みづくりとその理由等を御教授いただきたい。</p>		
依頼に対する活動内容	<p>上記依頼内容を踏まえた講演を以下の内容で実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○テーマ 講演「学校の魅力化が地域を活性化する」 ○内容 <ul style="list-style-type: none"> ・小中学校の取組を中心とした講演と質疑応答 ・魅力ある教育環境を実現することで、定住や関係人口の増加など地域の活性化につながった事例等の紹介 ・自治体として取り組む方向性に対する助言等 ○構成 <ul style="list-style-type: none"> ・地域活性化伝道師藤岡様御講演「教育の課題解決&充実化の最新動向・事例」 ・株式会社Prima Pinguino竹内様御講演「義務教育領域の事例 ほか」 ・質疑応答 		
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・研修後アンケートを実施し、26人/34人が「満足・やや満足」と回答し受講満足度は高かった。 ※報告書作成時点ではアンケート期間中のため、一部 ・アンケートにおいて「山村地域は豊田市街との差別化が図りやすく、都市型と山間地型を子どもたちの特性に応じて選べるというのが、他市にはない売りになり得るのではないか」「都市と農山村の両方の魅力があるからこそできる教育の取組をもっとPRできたら」などの意見が見られ、部局横断的に取り組む機運の醸成を図ることができた。 ・また、学校コーディネーターの配置など、先進的な教育を教育現場で実践してもらうための体制についても知ることができた。 		
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・魅力的な学校づくりを進めるにあたり、市内外に訴求力のある取組が求められるが、もっとも大切なのは子どもの育成につながるかどうかを念頭に置く必要がある。 ・探究的な学びについては、以前から文科省や他自治体でも重要性が叫ばれている状況にあり、すでに教員個人で工夫を凝らして実践している例もあると思われる。その中で、本市が改めて教育施策の軸として全市的に打ち出すにあたり、実践する学校現場に如何に浸透させ、多忙な状況でも実践に移せるような環境にするかがもっとも重要となる。 		
今後の方針	<ul style="list-style-type: none"> ・本市は、「学校数が多いこと」や「リソース(財源・人)があること」から、それ故に多角的・多面的に推進しようとしすぎ、対外的に魅力が伝わらないプロモーション力に欠ける取組になりがちではないか。 ・本研修の事例のように、根幹となる理念を共有し、常に立ち返りながら取り組むことが重要。 ・部局横断・全市一体となって取り組むことが必要なテーマであることから、検討・推進体制の構築が課題となる。令和8年度から本格的に実践していくため、体制について考え、関係各所が主体的に取り組めるよう働きかけていく。 		

実施報告書

地方公共団体名	和光市	派遣伝道師氏名	久野 美和子
依頼内容	<p>和光市では、産業地区において、「イノベーション×ウェルネス」をまちづくりコンセプトとし、官民連携による持続可能なまちづくりを検討している。事業の方針としては、官民連携や共創を促進するためのエリアプラットフォームを立ち上げ、参加者の活発な事業提案や意見交換により、地域課題の解決に資する事業を検討し、複数の参加者が協働して事業化していく。そこで、異分野の事業者や市民を集めて、協働事業について学び、和光北インター周辺地域における課題解決や賑わいの創出を目指す。さらに、共に取り組むことができる企業・団体の発掘、交流を促進するため、講演会で協働に関する講演およびワークショップでのアドバイザーを依頼した。</p>		
依頼に対する活動内容	<p>「和光北インター周辺地域まちづくり講演会」を開催。 久野先生により、千葉県佐倉市のまちづくり事例を含んだ講演と「協働による取組の創出」をテーマに参加者によるワークショップを行い、講評をいただいた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日時：令和7年9月29日（月）15時00分～16時40分 ・講演会内容： <ul style="list-style-type: none"> ・久野先生による講演 テーマ：【『官民協働での「まちづくり」& 中小企業振興』が日本の未来を創る戦略】 ・参加者によるワークショップ テーマ：【個々の強みを活かした協働による取組の創出】 ・参加者：当エリアまちづくりに関心のある企業・団体・市民等 		
成果	<p>千葉県佐倉市のまちづくり事例を含む講演により、和光市のまちづくりについて考えるきっかけとなった。 講演内容を踏まえて実施したワークショップでは、協働の取組に関する活発な意見交換が行われ、当エリアに対する協働の可能性など志気が高まった。 また、久野先生と交流することで、まちづくりへの関心と意識の向上につながった。</p>		
課題	<p>エリアプラットフォーム構築に向けては、必要なステークホルダーの確保・発掘が重要な課題であり、当講演会をはじめとする継続的な取り組みが不可欠である。さらに、当該エリアの課題解決や地域の賑わい創出に向けた具体的な取り組みを実現するためには、リーダーシップを担う企業の発掘・参画を促進することも、今後の重要な課題である。</p>		
今後の方針	<p>エリアプラットフォーム構築に向けて、イベントの開催や既存のイベントを活用し、当該エリアのまちづくりに関するPRを行うことで、地域の担い手の発掘および和光北インター周辺地域の賑わい創出を図るとともに、エリアプラットフォーム構築に向けたメンバーの育成・定着を進めていく。</p>		

実施報告書

地方公共団体名	下関市	派遣伝道師氏名	木田 悟
依頼内容	<p>本市スポーツコミッションは、2020東京オリンピック競技大会事前キャンプ誘致業務を主要業務として平成28年4月に設立された組織ではあるが、十分なスポーツコミッション活動が展開できていない状況にある。そこで、自治体のみではなく、民間の組織や住民をも巻き込み、連携した地域活性化やまちづくりを進める質の高いスポーツコミッションを目指したいと考えている。また、将来的に組織は、行政を離れて存在させるとともに、民間を中心とした組織へと変貌させていくための第一歩として、組織の在り方を含めた連携手法やロードマップ、事業形成等のアドバイスをいただきたい。</p>		
依頼に対する活動内容	<p>日時 ①令和7年6月10日(火)16:00～17:00 ②令和7年6月11日(水)10:00～12:00</p> <p>内容 ①市内体育施設の視察 ②講演</p> <p>参加者 市職員、スポーツクラブ職員</p> <p>初日は、本市の新たなスポーツ拠点として昨年開館したJ:COMアリーナ下関 と、隣接するセービング陸上競技場 を見学していただき、施設の活用方法や運営の工夫などについて、さまざまなご意見をいただいた。</p> <p>2日目は、「下関市のスポーツを活用したまちづくり」をテーマとした、スポーツによるまちづくりや地域づくり、地域活性化の視点から、スポーツをより広く捉えることの重要性について学び、従来の体育としてのスポーツだけでなく健康増進や福祉、地域活性化などと結び付けて総合的に捉えることの重要性についてご講演いただいた。</p>		
成果	<p>体育とスポーツの違いや役割を理解するとともに、スポーツを単なる競技種目やイベントとして捉えるのではなく、まちづくりの基盤となる地域資源として活用する重要性を確認することができた。特に、本市が今後進めるスポーツを通じたまちづくりを目的とした質の高いスポーツコミッションの実現に向けて、目指すべき方向性を参加者全員で共有することができた。</p>		
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・行政内組織として現在置かれているスポーツコミッションが十分に機能していないこと ・市や民間等の関係団体の連携が図れていないこと。 ・官民連携で進めるための事業モデルが確立されていないこと 		
今後の方針	<p>本市では、令和6年3月に策定した第2期下関市スポーツ推進計画において、「賑わいと交流を生み出すスポーツ」を基本方針の1つとしており、その施策目標に「スポーツイベントの魅力向上と交流の拡大」、「スポーツを通じたまちづくりの推進」を掲げていることから、これらの施策目標を達成するために必要な組織体制の構築を主体的かつ責任を持って継続的に進めていく。</p>		

実施報告書

地方公共団体名	岩手県一関市	派遣伝道師氏名	吉澤 武彦
依頼内容	<p>一関市では、令和6年3月に一関市地域公共交通計画を策定しており、当該計画の施策として、既存の公共交通機関だけではなく、福祉輸送やスクールバス、地域住民によるボランティア輸送等の情報を収集し、利活用について検討することとしている。</p> <p>これら地域の多様な輸送手段の一つであるコミュニティ・カーシェアリングについて知識を深めるため、市職員（地域協働担当、公共交通担当、高齢福祉担当）と地域協働体職員（地域住民含む）を対象に、コミュニティ・カーシェアリングの仕組みや導入事例、取組状況などの講演を地域活性化伝道師に依頼した。</p>		
依頼に対する活動内容	<p>コミュニティ・カーシェアリングに関する研修会</p> <p>(1)テーマ 「地域が主体となった移動手段確保に向けた取組について」</p> <p>(2)日程 令和7年9月5日(金) 午後1時30分～午後3時</p> <p>(3)会場 一関文化センター小ホール</p> <p>(4)参加者 74名(地域協働体職員等44名、一関市職員28名、その他2名)</p> <p>(5)概要 コミュニティ・カーシェアリングの仕組みや導入事例及び取組状況などの講演、質疑等意見交換</p> <p>講演後、参加者からは、ドライバーへの対価や受付方法などについて質問があり、講師からは実践グループの事例などを紹介いただいた。</p>		
成果	<p>コミュニティ・カーシェアリングに関して具体的な事例を交えてわかりやすい説明をいただいたことで、コミュニティ・カーシェアリングが高齢者の移動手段としての有用性ととどまらず、地域住民同士の交流を促進する新たなコミュニティ形成の可能性があることなど、理解を深めることができた。</p> <p>また、今回実施した研修会では、地域協働体から多くの参加者があり、コミュニティ・カーシェアリングに対する興味関心があることが伺えた。</p>		
課題	<p>地域ごとに抱える課題は異なるため、まずは地域で何を課題と捉えているか、課題に対する解決策を行政も一緒に考えていく必要があり、地域住民が主体的に参加しやすくなるような仕組みづくりが必要である。</p>		
今後の方針	<p>当市では、地域内の円滑な移動手段の確保及び利便性向上が課題であり、コミュニティ・カーシェアリングは、公共交通施策では賅いきれない地域コミュニティによる地域の課題解決に向けた取組の一つであると捉えていることから、導入に向けての地域の話合いや合意形成に関し、庁内での協力体制を検討していきたい。</p>		